

ふるさと歴史アラカルト

カラー写真で見る錦帯橋の流失

昭和25(1950)年9月、キジア台風が中国地方を襲いました。この台風は各地で大きな被害をもたらし、高潮によって宮島の厳島神社社殿が破損しているほか、岩国市でも延宝2(1674)年から276年不落を誇った錦帯橋が流失しています。

キジア台風が岩国市に接近したのは9月13日。暴風雨によって、14日午前8時半頃には、錦川の水位は平時より3.3m上昇し、錦帯橋は非常に危険な状態となつてしまいます。そこで、3つの反橋に6尺桶に水を入れて置くなどして防備に努めました。この対策も空しく午前9時47分から濁流に呑み込まれていきました。流された錦帯橋の残骸は、後日錦帯橋川下にある臥竜橋に引つかかったり、瀬戸内海まで流されたりして発見されています。

流失の原因は、太平洋戦争中に松根油を取るなどして、山を荒らしたことにより洪水を助長してしまったこと、戦後の海面埋め立てに伴い、錦帯橋下の河原の砂利を大量に採取したこと

橋脚周辺の敷石が緩んでいたことなどが考えられています。

写真はキジア台風が過ぎた後に撮影されたものです。中央2つの橋脚が根元から崩壊していることが、増水による破壊力の強さを物語っています。キジア台風で錦帯橋が流失する様子を写した白黒写真は多く残されていますが、カラー写真は珍しく、流失後の錦帯橋を生々しく伝える貴重な資料といえます。

またキジア台風の被害によって確認できたこともあります。橋脚の編木基礎が掘り出されたことで、古い記録と現物を照らし合わせることができました。その他、橋脚を築く時、無事に落成することを願って人柱を立てたという人柱伝説がありました。実際に人柱の形跡はなく、伝説は否定される結果となりました。その代わりに、石鑿(いしのみ)や槍の穂先、小柄などが出土しており、これらは工事の安全を願って埋められたものと考えられます。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)



▶昭和25年撮影(撮影者William B. Perry氏、提供者岡崎茂氏)

7月9日(日)まで岩国徴古館で企画展「錦帯橋展」を開催しています。

岩国市 人口・世帯

人口 137,448人 【前月比 + 295人】 男性 65,196人 女性 72,252人

世帯 66,190世帯 【前月比 + 245世帯】 ※外国人人口を含む (平成29年5月1日現在)

交通事故発生件数 4月分事故件数 32件(178件) 死者数 1人(3人) 傷者数 40人(213人)

※高速道路発生分を除く ※ () 内は平成29年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。 **テレホンサービス ☎231234**

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、広報戦略課広報班へ ☎295016 FAX213337